市史編さんだより 第12号

発行　令和4年4月30日

新発見の東光寺本堂柱の銘文

写真　東光寺本堂

銘文箇所（点線部分）

本堂南脇陣の柱

吉川町福吉の東光寺の本堂は、室町時代初期の建立と考えられており、国の重要文化財に指定されています。建立以降度々修理の手を加えられてきましたが、昭和43年（1968）から45年にかけて、大規模な解体修理が実施されています。その時、用材についても詳しく調査され、いろいろな所に記された墨書銘（墨で木材に書かれた文字）も、煤けて肉眼では見えないようなものまで余さず採録されました。調査の結果は『重要文化財東光寺本堂修理工事報告書』（1970）に全て掲載されています。

ほかに墨書銘はないと思われていましたが、このたび編さん室が行った調査で、報告書に記載されていない墨書銘が発見されました。その墨書銘は、本堂内の南脇陣と外陣および外側の三方の境目に位置する柱の南脇陣に向いた側で見つかりました。たしかに肉眼では文字を確認することはできず、赤外線カメラの力を借りてようやく文字を読み取ることができます。50年前の修理の際には、よもやこんな所に文字があるとは誰も思わなかったのでしょうか、発見には至らなかったようです。そのためか、修理によって柱の下部で旧材と新材が継がれたために文章が途中で切られてしまい、読めなくなっています。残った銘文は、

柱材の継ぎ目→

墨書銘の赤外画像▶

九州彦山之客僧當寺江罷越此堂を宿仕候少ろ（以下不明）

となっています。読み下すと、「九州彦山の客僧当寺へまかり越し、この堂を宿つかまつりそうろう（以下不明）」となり、現代語訳すると「九州の彦山から来た旅の僧がこの寺へやってきて、この堂を宿所といたしました」というような簡単な内容です。あるいは旅の僧本人が記念に書きつけものかもしれません。

彦山は、九州の福岡県と大分県にまたがる山で、とくにその山中にあった修験道の寺院を指します。明治時代の神仏分離で修験道が廃されたため英彦山神社に変わって現在に至っています。享保年間に霊元天皇によって「英」の字が与えられ、「英彦山」と称しましたが、それまでは「彦山」と表記されていました。したがって、東光寺の墨書銘も江戸時代前期にまでさかのぼる可能性があります。修験者＝山伏は霊山での修行を行う僧ですが、吉野の大峰山（奈良県）や出羽の羽黒山（山形県）など日本列島各地の霊山を踏破する修験者も多くいました。残念ながらこの墨書銘が書かれた時期も、客僧＝修験者の名前もわかりませんが、江戸時代の東光寺に九州彦山の山伏がたしかにやってきていたことを示す貴重な証拠です。（木村）

交通アクセス　中国自動車道吉川ＩＣより車で6分

《市史の窓》女性の活動の記録―女子青年団、婦人会の「日誌」―

三木市には女子青年団や婦人会に関する、豊富かつ詳細な史料が残されています。これらは、当時の女性に何が求められたか、また女性がどのような実践を行っていたのかをうかがい知ることが出来る貴重な史料と言えます。

例えば志染村女子青年団細目甲支部の「日誌」には、創設当初の昭和2年（1927）から昭和18年（1943）までの様々な活動が列記されています。「日誌」によりますと、料理や洗濯、編物に関する講習会が数多く開かれていました。例えば昭和5年（1930）10月15日の「洗濯講習」は「絹布毛織物人絹類が主」で、支部からは1名が参加して「実生活に摘（ママ）したよい講習でした」と好評でした。また田植や稲刈りといった農作業への協力や、団員や村内での結婚を祝う記録がしばしば見られるなど、当時の生活の実態や価値観、女性に求められていたステータスがわかります。特に結婚に関しては、団員が祝いの品を用意したり嫁入り相手を出迎えに行くなど、重要視されていました。

写真1　女子青年団「日誌」

また総会の余興のダンスを楽しんでいたり、姫路方面（昭和4年（1929））や明石須磨方面（昭和7年（1932年））への見学旅行、神戸大丸での展覧会への参観（昭和11年（1936））といったイベントの企画、参加も記録されており、当時の農村部における文化状況を垣間見ることが出来ます。一方で加古川方面への見学旅行（昭和3年（1928））や、大規模な博覧会も開かれていた神戸での観艦式（昭和5年（1930））への参加者がゼロ人であったことも明記されています。日本において観光は1920年代後半から徐々に普及しだしたものであり、この時期はまだ過渡期でさほどの求心力を有していなかった可能性がうかがえます。

「日誌」を読み進めますと、戦争の影響が徐々に濃くなってきます。昭和6年（1931）の満洲事変時には、翌年1月に講演会が開かれたことを皮切りに、兵器献納の募金や兵士の出迎えの記事が見られるようになります。昭和12年（1937）7月に日中戦争が勃発しますとさらに戦時色の濃い記事が相次ぐようになり、上記のような行事ごとの記事はほとんど見られなくなってしまいます。出征者の見送りや慰問文の作成、武運長久の祈願祭、遺家族の慰問、遺骨の出迎えや村葬への参加、報国貯金の募集、モンペ着用の促進・・・銃後で女性が担わされた／担った役割が、簡素な「日誌」の文章から浮かび上がってきます。

細目地区ではほかにも、婦人会の様々な史料もまとまって存在しています。特に日誌は大正12年（1923）から昭和43年（1968）までの長期間書き継がれてきました。農作業や会議といった日々の活動の合間に、関東大震災の義援金募集や日中戦争に伴う奉仕活動や慰問活動など、時代状況に沿った旺盛な活動が記載されています。敗戦の記述は非常に簡素で、女性参政権といった大変革や戦災の影響を受けつつも、味噌造りなどの講習会といった日々の活動は早々に再開されたようです。そして戦後しばらくすると、映画鑑賞や旅行などの記事が増え始め、生活に落ち着きと豊かさが取り戻されていきました。

写真2　細目地区の婦人会の日誌一式

三木市内の他の地区には、平成に至るまでの婦人会の活動記録も残されています。こうした史料を読み解くことで、地域社会における女性の活動や在り方が今後さらに明らかとなることでしょう。（吉田）

市史編さん室が行う「調査」とは？～区有文書（くゆうもんじょ）調査　その２

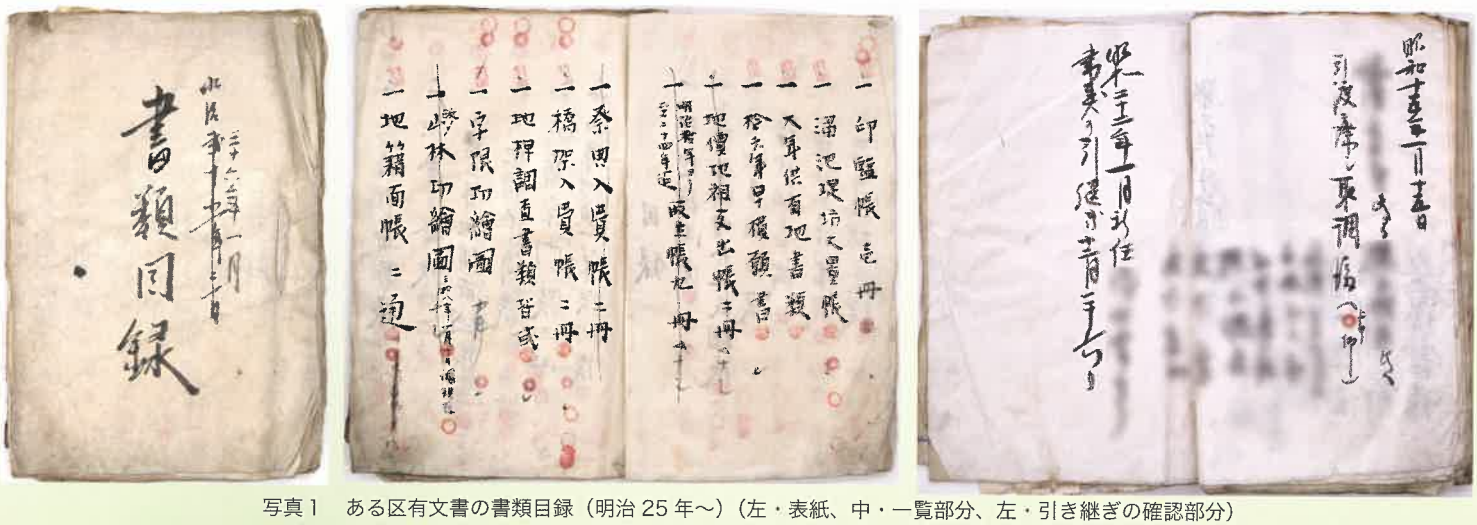


写真１　ある区有文書の書類目録（明治 25 年～）（左・表紙、中・一覧部分、左・引き継ぎの確認部分）

４月になると多くの地区で区長が交代されます。区長の任期は、一般には１年間か２年間ですが、人口の少ない地区などでは、任期が終わっても再任されて引き続き区長を務められる場合もあります。

区長が交代するとき、事務の引き継ぎが行われますが、その一環で、地区で作成し蓄積してきた書類（区有文書）の引き継ぎがなされます。前号で触れたように公民館などに区有文書が保管されるようになると、役員一同の立ち会いのもと、リスト（目録）に記された文書を一点一点確認したうえで引き継ぎされました。

写真１は、ある地区の区有文書の書類目録です。最初は明治 25 年（1892）に仕立てられています。しかし、その後、引き継ぐ書類の追加、移管、所在不明といった点についてのチェックが、３年から最大で８年の間隔で引き継ぎがなされる毎に行われ、最後は昭和 34 年（1959）に引き継ぎがなされたという記載があります。チェックに当たっては、その年独自のマークが、所在確認された書類名の上下のいずれかに示されています。

写真２　ある地区の区長持ち回り区有文書

しかし最近ではこうしたチェックが十分に行われず、書類が収められていることだけはわかるものの、具体的に何が入っているかはわからないロッカーなどの鍵が引き継がれるだけで済まされる場合も多いようです。普段は会社勤めをされている現役世代の区長も多く、多事多忙の現代にあっては、何事も簡略化されていくのは一面仕方のない事かも知れません。しかし、用務の簡略化により、地区の方々の区有文書に対する関心が低下することは避けられないでしょう。

＊　＊　＊

前号で、最近は少なくなった区有文書の区長持ち回りについて少しふれましたが、運ばれるものは、

写真３　区長文書箪笥を運ぶスタイル

多い時にはダンボール箱など 10 箱以上に及ぶこともありました。当初は多くの文書が詰めこまれたタンスを２人１組で担いで運んでいました。（続く）

（木村）

編さん室トピックアップ

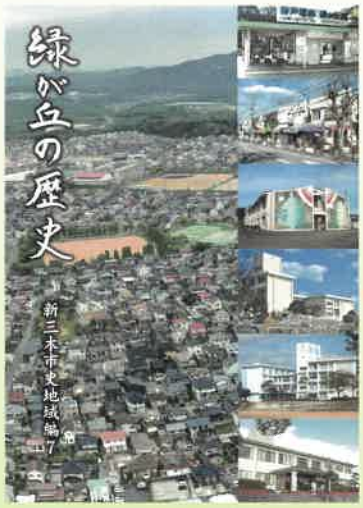
地域編『別所部会』の発足

令和４年１月７日に、別所町公民館にて、新たに発足した地域編「別所部会」の第１回部会が開催され、部会長には平田義則さんが選任されました。第１回部会では、部会員の役割、発刊までのスケジュール案の確認、章立て案の検討、地区調べアンケートの項目などをめぐって議論がなされました。別所部会の皆様には、新三木市史地域編３『別所の歴史』（令和６年３月発行予定）の刊行をめざし、市史編さん室をまじえた協議や史料収集、執筆などに取り組んでいただきます。住民の皆様におかれましても「別所部会」の活動へのご理解と積極的なご協力をお願いいたします。

別所部会協議の様子

新三木市史地域編７『緑が丘の歴史』、同10『吉川の歴史』の発刊

令和４年３月31日付で、新三木市史の３冊目・４冊目となる地域編７『緑が丘の歴史』と同10『吉川の歴史』を発刊いたしました。地域編は、《住民参加の自治体史編さん》というコンセプトを実現するため、本の制作全般にわたり、地域住民の方々にご参加いただいております。『緑が丘の歴史』、『吉川の歴史』も



多くの地域住民の方々のご協力のもと完成いたしました。発刊にあたり、改めてお礼申し上げます。『緑が丘の歴史』（頒価2500円）、『吉川の歴史』（頒価3500円）は、みき歴史資料館や三木市史編さん室（資料館２F）などで購入できます。既刊の地域編６『口吉川の歴史』、同４『志染の歴史』も販売しています。詳しくは市史編さん室まで。

古い資料や写真を探しています！

皆さんのお近くにある古い記録類は、地域の歴史を物語る大切な歴史遺産です。下記のような資料の情報をお持ちの方は、ぜひ市史編さん室までご一報ください！

◆くずした文字で書かれた帳面や一枚ものの文書などの古文書
◆和紙に書かれた冊子などの古い本
◆明治・大正・昭和の古いノートや記録（日記・手紙など）
◆三木市域の古い写真、絵画、映像など
◆自治会などの団体、地域でのグループ活動などの記録や資料
◆古いふすまや屏風（ぴょうぶ）（古文書が、下張りに使われていることがよくあります）　**etc.**

市民ボランティア募集中！

私たちは、市民ボランティア・メンバーとともに、市内にある文献資料を記録に残す取り組みを行なっています。現在の活動人数は約20名ですが、まだまだ募集しています。古文書が読めない方でも参加可能です。見学だけでも大歓迎です。詳しくは市史編さん室までご連絡ください。

◆開催日時：毎週水・木曜（どちらか１日の参加でもOK）13:00～16:00／場所：みき歴史資料館２階市史編さん室

活動内容：①古文書のデジタル撮影、②江戸時代以降のくずし字解読（翻刻作成）、③資料の修復（しわのばし・糊づけ等）、④新聞検索（各紙から三木に関する記事を選別）、⑤古文書現物からの目録作成、⑥パソコンでの目録データ入力

市史編さんだより　第12号（令和４年４月30日発行）
編集発行：三木市総務部 市史編さん室
連絡先：〒673-0432　兵庫県三木市上の丸町4-5　みき歴史資料館２階　電話0794-83-1120　／　FAX 0794-83-1190
ホームページＵＲＬ：https://www.city.miki.lg.jp/soshiki/9/